人権教育の活動について

本校の人権学習は、赤岡の人の心をみつめ、その輝きを感じることで、自分たちの心もきらきら輝かせていこうとするものである。そこで、この人権学習を「きらきらタイム」と称し、この「きらきらタイム」を柱として、すべての活動や教科の学習を通し、差別をなくしていこうとする仲間をつくり、心の温かい人間を育てていくことを目指している。

計画を立てるにあたって最も大切にしたことは、多くの人との出会いを通して、課題をみつける感性を磨くことである。そして、その課題を解決するための活動や体験を通して、自分・家族・なかま・ふるさとをみつめ、子共たちが自分の生き方をみつめることである。そのために、「なぜ、どうして」を出発点に、「知りたい」「やってみたい」という子共なりの課題追求を想定して学習計画を立てた。なぜなら、子共たちは自分をありのままに発揮して存分に活動することや、自分の力で解決した喜びを味わうことで、達成感や成就感を得ることができるからである。あわせて、ふり返りの時間に互いのよさを認め合うことによって高まった自尊感情が、集団としての高まりにも作用するからである。そして、そこで身に付けた力が、差別に気付き、差別をなくしていこうとする力、差別に負けない力になると考えている。

また、学習のなかで子共たちは、出会った人たちと「話す」ことによって自分のおもいを伝え、相手の考えを「聞く」ことによって自分の考えを補足、修正しながら、ものの見方、考え方、感じ方を構築していく。そして、そのようにして深められた考えを「言える」ということが、差別に向き合い行動化することの第一歩であると考えている。「きらきらタイム」の授業では、ふるさとを大切に思う心、相手を思いやる心や感謝の気持ち、だれもが共に生きることの大切さなどの価値観を身に付けることができるように授業づくりを行い、子共たちがよりよい人間関係を築き、つながり合う仲間に育っていってほしいと願っている。

これからも児童の興味・関心を促すとともに、地域のことをよく知り地域に誇りをもつことができるような学習内容を創造していくためにも、地域の先人たちから聞き取りをし、当時の歴史的背景や差別の現実、たくましく生き抜いてきた人々の思いをまず教職員が学ぶ姿勢をもちたい。そして、「部落差別の現実から深く学ぶ」という同和教育の姿勢を大切にし、子共たちの暮らしとつながり、豊かな人権感覚を培う学習内容を創造していくことが大切だと考えている。

今年度の取組

・「きらきらタイム」の充実
・人権教育参観日（授業公開）（２月２５日）
・５年「人権・仲間合宿」（９月１６・１７日）
・平和学習　１学期
・集団づくりレポート研修（夏休み）
・夏期校内研修（地域の方の思いを知ろう）（８月）
・研修への参加（県人研大会・四人研大会・全人研大会・人権セミナー　など）